

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年8月24日～2015年8月30日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年9月2日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼ティビロフ「大統領」の発言(26日)

・ティビロフ「南オセチア共和国大統領」は、「ジョージアが停戦合意に署名しない限りジョージアとの一切の交渉を拒否する」と発言。

2. 外 政

▼NATO事務局長のジョージア訪問(26日-27日)

・ストルテンベルグ NATO 事務局長がジョージアを初めて公式訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、ベルチャシヴィリ外相、ヒダシェリ国防相らと会談。

・ガリバシヴィリ首相との共同記者会見で、「ス」NATO 事務局長は、「NATO におけるジョージアの存在はより大きくなり、ジョージアにおける NATO の存在はより大きくなった」「センターはジョージア軍の能力の更なる向上、現代化を促進するとともに、NATO とパートナー諸国の協力を強め、国際平和・安全保障に貢献する」と述べた。

・ワルシャワでの NATO 首脳会議でジョージアに加盟行動計画 (MAP) が与えられる可能性について質問された「ス」NATO 事務局長は、来年の NATO 首脳会議の決定について話すのはまだ早いとする一方で、「ジョージアは加盟に向けて進み続けるために必要な手段を既に持っている」と答えた。

・「ウ」国会議長は「ス」NATO 事務局長との会談後、技術的な道具である MAP が政治的な問題になることを望まないと伝えたとして、我々が必要としているのは NAPO への加盟であって MAP ではないと述べた。

・「ベ」外相との会談で、「ス」NATO 事務局長は、MAP が進展の唯一の指標と見なされるべきではなく、ジョージアにおける活発な NATO の存在のほうがより重要であると述べた。

▼NATO共同訓練・評価センターの開設(27日)

・トビリシ郊外のクルツァニシ訓練センターで NATO・ジョージア共同訓練・評価センター (JTEC) の開所式が行なわれ、ジョージアを訪問中のストルテンベルグ NATO 事務局長、マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ヒダシェリ国防相およびその他のジョージア政府高官らが出席した。JTEC は、2014年9月のウェールズでの NATO 首脳会議でジョージアに与えられた「実質的パッケージ」の一部で、ジョージア、NATO およびパートナー諸国の軍の訓練を目的としている。

・開所式で「ス」NATO 事務局長は、ウェールズでの首脳会議で NATO はジョージアに対し国防改革を進めるため実質的な支援を約束したとして、「その約束の実現がまた一つ果たされた」「センターの開設により我々の協力は更に深まる」と述べた。

・「ガ」首相は、センターは第三国に対抗することを目的としたものではないと強調。

・当面、JTEC はデンマーク、ラトビア、リトアニア、ノルウェーからの6名の NATO 職員およびジョージア軍職員8名により運営される。JTEC でのジョージア部隊の訓練は2016年に開始される予定。

・露外務省報道官は、JTEC の開設は NATO の「挑発的な政策」の継続を示しており、地域における深刻な不安定化要因となるとコメント。

3. 内 政

▼憲法記念日(24日)

・憲法制定から20周年を記念した式典が大統領府で催された。ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、憲法裁判所長官、最高裁判所長官らが出席。マルグヴェラシヴィリ大統領は演説のなかで憲法記念日を祝日とすることを提案した。

4. 経 済

▼2015年1月～7月の貿易収支(21日)

・国家統計局が発表。貿易額5,573百万ドル(前年同期比14%減)、輸出額1,269百万ドル(同24%減)、輸入額4,305百万ドル(同11%減)。貿易収支は3,036百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳は EU 諸国31%、CIS 諸国28%、その他41%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、ドイツ、アイルランド、ブルガリア、アルメニア、米国。日本は第9位の輸入相手国(輸入額129,261.3千ドル)。

▼AIIB第6回首席交渉官会合(24日-25日)

・トビリシにて AIIB の第6回首席交渉官会合が行なわれ、創設メンバー57カ国の代表者が参加。金立群 AIIB 多国間暫定事務局長が総裁候補に選ばれた。会合後に行なわれた記者会見で、金立群 AIIB 総裁候補は、「AIIB が全ての加盟国において成功を収めるようあらゆる努力を行なう。AIIB が最良の国際的な慣行と基準に沿って運営されることを約束する。AIIB の運営が今年末までに始まり、今後の成功がその他の地域にも広まっていくよう期待している。AIIB はインフラプロジェクトに焦点を当てており、21世紀に適したインフラの発展が地域にもたらされるだ

ろう」と述べた。

・ハドゥリ財務相は、交渉官会合への参加のためにトビリシを訪れた金立群氏、史耀斌・中国財政副部長、韓国企画財政部次長らと会談。

▼通貨ラリの減価(26日)

・米ドルに対するラリの減価が進行し、26日、1999年以来的の水準となる1米ドル=2.4161ラリをつけた。前年同月比で40%、年初から28.4%減価し、1999年3月に記録された史上最安値1米ドル=2.45ラリに肉薄。

・25日、ガリバシヴィリ首相は、ラリの減価の進行は更なる減価を予測する「無責任な専門家や政治家」の声明が引き起こした騒ぎのせいであるとコメント。

・クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣は、マクロ経済指標は正常であり、特別な事態は起こっていないと述べた。

▼2015年1月～7月の電力の輸出入(27日)

・電力システム・コマーシャル・オペレーター (ESCO) の資料によれば、2015年1月～7月の電力の輸出量は566.29百万KWhに達し、2011年～2014年の総輸出量を越えた。最大の輸出先はトルコ(325.85百万kWh)で、他にロシアとアルメニアに輸出している。

・2015年1月～7月の電力の輸入量は350.84kWh。

▼ADBの融資プログラム(28日)

・アジア開発銀行(ADB)はバトゥミ南西部の黒海沿岸5kmの浸食を防ぐ護岸工事のため2千万ドルの融資を決定。ジョージアに対する3億ドルの融資プログラムからの4回目のプロジェクトとなる。